

人工股関節 Q&A

✓ 費用はどのくらいですか？保険はききますか？

- 通常の医療保険を用いた治療です
- 高額医療費制度の対象になります
- 保険割合などで自己負担は代わりますので、受診時にご相談ください

✓ 何日くらいの入院が必要ですか？

- 世界的には数日以内での退院が一般的で、近年は日帰り手術も行われます
- 低侵襲な手術とともに、積極的に痛みや吐き気を抑え、術後早期からリハビリテーションを開始することで、殆どの患者さんが術後3日目までに杖歩行や階段昇降ができるようになります
- 当院では、患者さんの回復状況や生活スタイルによって1-2週間リハビリをしっかりと継続してから退院していただきます

✓ 歩けるようになりますか？

- 手術翌日から歩行器や杖を使用して歩行訓練を開始し、術後数日で階段昇降、着替え、シャワー浴が可能となります
- 手術前の状態や術後の回復状況で多少差はありますが、人工関節置換術後は多くの方が痛みなく歩けるようになります

✓ **退院するときには階段の歩行は可能ですか？**

- 杖歩行、屋内独歩、階段昇降などを訓練し、ご自宅で困らない状態で退院します

✓ **いつシャワーを浴びることができますか？**

- 術後数日で防水の絆創膏を貼った状態でシャワー浴ができます

✓ **回復にはどれくらいかかりますか？**

- 個人差はありますが多くの場合、術後 6 週間程でほとんどの日常生活が可能となります
- 術後 3 ヶ月までには、日常活動がよりスムーズに行えるようになります

✓ **車の運転はできますか？**

- 通常、術後 4 週程度で運転を許可しています
- 術側が左の場合にはもう少し早くなる可能性（2 週間程度）があります
- 過去の報告では反射的な動き、対応の回復には 6 週程度かかるという報告があります。交通事故などの可能性もあるので十分な注意が必要です

✓ **どれくらいで仕事復帰できますか？**

- 仕事の内容や通勤方法などにもよります
- コンピューター操作などの座って可能な仕事、いわゆるデスクワークであれば退院

後直ぐに復帰できます

- 身体を使う仕事であれば、術後1-2ヶ月は休めると安心です

✓ **術後薬を飲む必要がありますか？**

- 痛み止めを中心に、血栓予防のお薬などを服用します
- 手術後数日で痛みのピークは越えますが、人によっては数週間投薬を必要とする場合があります
- 術前の痛みとは異なり、解消していく痛みですので、痛みのある時期には十分に鎮痛薬を使用することが重要です

✓ **術後、理学療法（リハビリテーション）は必要ですか？**

- 術後は、ストレッチや臀部や大腿部の筋力訓練を行うことが望ましいです
- 入院中に理学療法士から自宅での訓練方法の指導を受けます
- 退院後は、御自身でリハビリを毎日継続して行うことが重要ですが、状況によっては外来通院でリハビリをすることも可能です

✓ **人工関節は空港でのセキュリティーチェック（金属探知機）に反応しますか？**

- 90%以上の人工関節が金属探知に反応すると考えられます
- 原則、セキュリティー検査を受ける前に検査官に申し出てください
- 言葉で伝えるのが心配であれば、TSA's Notification Card（TSAのホームページ

からダウンロードできます) を提示してください

- これらのカードや証明書を提示したとしても、金属探知機によるセキュリティーチェックが免除されることはありません。ボディチェックに備え、手術創を見せやすい服装にしておくのが良いでしょう

✓ **術後、できない運動はありますか？**

- 人工関節を長持ちさせるために、ランニングやジャンプ動作を含む運動・競技に関しては、負荷や頻度を調整した方が良いと思われれます
- インプラントの破損や脱臼を避けるために、激しいコンバットスポーツ（格闘技）やコンタクトスポーツは推奨できません

✓ **術後の制限はありますか？**

- 使用したインプラントが体内で安定し、手術の創が落ち着くまで、術後6週間は過度な負担を避け、脱臼しやすい姿勢（脱臼肢位）を避けることが望ましいです
- 術後6週間以降は、筋力が回復していれば特に制限は設けていません

✓ **なぜ手術前に歯科受診が推奨されますか？**

- 口腔内の細菌が血流に乗って体内に広がり、時に人工関節まで到達する可能性があると考えられています
- 術後感染症をできるだけ減らすため、術前の歯科受診をお願いしています

✓ 術後の歯科治療はどうしたらよいですか？

- 人工関節術後に必要となった歯科治療に関して、歯科処置前後の予防的な抗生剤の投与に明確な根拠はありません
- しかし、人工関節周囲に感染を生じた場合の治療の大変さを考慮し、一定の侵襲を伴う処置（抜歯や歯肉や顎骨まで到達するもの）は、処置直前から抗生剤投与を受けて治療を受けて頂くことが望ましいと考えています
- 手術後に歯科治療を受ける予定になった場合には、担当医にご相談頂くことをお勧めします